

9月に入りましたが、まだまだ暑い日が続きますね。引き続き、体調管理にはお気をつけください。
今月の「シリーズ 図書館でめぐる郷土」では「河内弁」をご紹介します。河内弁と聞くと、どんな印象を持ちますか？おそらく、「粗暴」「柄が悪い」「悪たれ弁」…そんなイメージではないでしょうか。しかし、本当の河内弁は、情味豊かなふるさとの言葉なのです。

シリーズ 図書館でめぐる郷土

第十九回 『河内弁』

大阪府は「^{せつかせん}摂河泉」と言って、摂津国、河内国、和泉国が合併したもので、その河内国にあたる部分で使われている方言を「河内弁」といいます。河内弁はしばしば大阪弁の一部と考えられてきましたが、大阪弁は商人ことば、河内弁は百姓ことばという風に、上下の地位概念ではなく対立したものとらえた方が良いでしょう。しかし、隣同士であるので互いに影響し合って音韻や語法、語彙に共通するところも数多くあります。

河内弁と言えば、「汚い、乱暴」というイメージが多く聞かれます。そのイメージはどこから来たのでしょうか？

ひとつは、メディアの影響です。今東光の『小説河内風土記』『悪名』などの一連の河内物は特に河内の悪態弁を強調しており、映画化された『悪名』では、勝新太郎の名演技によって「河内のヤーさん」が脚光を浴びました。また、ミス花子の流行歌「河内のオッサンの唄」では「やんけ」「ワレ」などを過剰に繰り返して、河内弁は粗野で乱暴というイメージをますます広めることになりました。

次に、喋り方や発音の問題があります。河内弁の特徴として、「早口」「短縮語が多い」「繰り返す言葉が多い」「終助詞の変化が多様である」などが挙げられます。

【短縮語の例】来るな→きな・くな 面白い→おもしろい

【繰り返す言葉の例】「よおよお(やっど)働けるようになって、こんでやれやれだっさ。えろう苦労かけて」

【終助詞の変化の例】「言うてん」「言うてんねん」「言うてんねんがな」「言うのんか」「言うとのんか」

また、「しなはれ→しなあれ」「まゆげ→まいげ」のように「ハ」「ヒ」「ユ」「ヘ」「ホ」列の子音が取れて母音になる傾向が強く、東京ことばに比べて歯切れが悪く汚く聞こえます。さらに、河内弁では言葉の最後に唇を開いたまま発音する 경우가多く、例えば東京だと子どもを叱るのに、「ヤメキナサイ」「イケマセン」のように口がぐっと閉まるのに対し、河内弁だと「ソナンシタラアカンデ」「アカヒ(イ)ンヤナイカ」という風に口を開いたままになります。このような語尾は、やや間の抜けた響きに聞こえるかもしれません。しかし、そこにこそ、温情味豊かな母性愛が現れていると言えるのではないのでしょうか。また、なるべく開口音に変化させて発音するというのは、河内人の明るさや陽気さを表しているとも言えます。

河内には数多くの天皇の御陵が遺されていることから、宮中言葉すなわち上流階級の言葉が今に伝えられていると考えられます。これらを踏まえて考えてみても、単純に「河内弁は汚い」とは言えないのではないのでしょうか。

誤解を受けることも多い河内弁ですが、触れてみると温かくはんなりとした一面も見えてきます。河内の文化に親しむ時は、ぜひ、そこにある言葉にも耳を澄ませてみてください。

参考資料

『幻の河内弁 パートⅡ 会話編』1985年9月 後藤利幸
『雑筆 河内弁』1989年4月 巽 千柿楼/著 巽 駒太郎/発行
『大阪春秋 第101号』2000年12月 大阪春秋社
『南河内ことば辞典 やい われ!』2001年8月 富田林河内弁研究会

『郷土研究 河内文化 第12号』1959年4月 布施史談会
『河内どんこう vol.1 no.3、4』1976年11月、
1977年2月 やお文化協会



【写真】『かんさい絵ことば辞典』
ニシワキタダシ ビエ・フックス

9月のTopics&Information



-Topics



図書館ボランティア

龍華図書館には図書館の活動をより活性化し、手助けしてくれる心強い存在、「図書館ボランティア」の皆さんがいます。

大きく分けて、本の修理やフィルムコートによる装備をする「修理・装備ボランティア」と、おはなし会で読み聞かせをする「読み聞かせボランティア」の2種類があり、それぞれ週に1～2回を目安に図書館に来て、活動していただいています。

修理・装備ボランティアの皆さんにはこれまで数えきれないほどの本を修理・装備してもらいました。丁寧かつスピーディーに作業をしてくださる皆さんにとっても感謝しています。

読み聞かせボランティアの皆さんは、毎週土曜日のおはなし会のために日々練習を重ね、おはなし会を盛り上げてくれています。昨年度には読み聞かせボランティアさんだけで、おはなし会をしていただきました。ボランティアさんの読み聞かせを聞いて、私たちスタッフも勉強になることが沢山あります。

現在は新型コロナウイルスの流行により、活動休止中ですが、また皆さんとお会いできる日が来ることを心から願っています。

-Information 図書館のご案内

龍華が舞台の感動小説

今回は『母さんがどんなに僕を嫌いでも』や『やせる石鹸』などの作品でお馴染みの小説家、歌川たいじさんの最新刊、『バケモンの涙』をご紹介します。この小説の舞台は太平洋戦争の最中にある龍華地区です。主人公の女性は食糧難の時代に、子どもたちを飢えから救うため、大量の穀物を食べられるポン菓子に目をつけます。国産初のポン菓子製造機を開発した彼女の偉業を描いた本作は、涙なしでは読むことができません。戦時下の八尾で子どもたちのために懸命に奮闘した1人の女性の感動の実話を是非、お手に取って読んでみてください。



『バケモンの涙』

(資料コード: 710690363)

歌川たいじ / 著

太平洋戦争の最中、日本は未曾有の食糧難に襲われていた。橘トシ子 19歳は、少ない燃料で大量の穀物を食べられるポン菓子の存在を知る。ポン菓子製造機を作ろうと、トシ子は製鉄所のある北九州に女ひとり乗り込み…。【TRCマークより】

今月の一冊はコレ!



『世界はなぜ月をめざすのか』

(資料コード: 710322546)

著: 佐伯和人 / 出版: 講談社



9月といえば十五夜。月面旅行なども話題になりましたね。古くは「竹取物語」の時代から、私たちの月に対する興味や憧れは尽きることがありません。日本をはじめ、アメリカやロシアなど、各国が競うように月に対する調査研究を進めています。世界はどうして月を目指すのか。今よりも気軽に月面に立つことが出来るようになったら、どんなことが可能になるのでしょうか。月周回衛星「かぐや2」の企画に関わる著者が、専門家ならではの視点で宇宙大航海時代の針路を示します。

編集・発行 八尾市立龍華図書館 指定管理者 株式会社図書館流通センター

〒581-0056 大阪府八尾市南太子堂 2-1-45
TEL 072-922-8007 FAX 072-922-7057
ホームページ <https://yao-ryugelib.jp/>

Facebook

情報発信をしていますので、
いいね! してください。

